

(1) 千登世橋及び聯絡迂迴道路。

舊高田町地内都市計畫道路 高低交叉に就て

東京府土木部技師 上村 爲人

總 說

本工事箇所は、日本女子大學校前より省線目白驛に通ずる幹線放射道路（都市計畫二等大路第一類第十一號線）と、神田上水高田橋より省線池袋驛に通ずる幹線環狀道路（都市計畫一等大路第三類第十二號線）との會合點で、兩者を特に高低交叉せしめ、その連絡に特別の施設をしたものである。

いま附近の模様を概略述べてみると、放射線は東西に走り、その北側一帯は丘陵をなし又南側は一般に低く、戸塚の臺地との間に存する幅約400米の窪地とこの放射線の路面高との標高差は約20米である。この窪地には大小種々の工場があつて、一大工場地帯を形成してゐる。又昭和7年11月現在の調査に依れば、この地高田南町の人口密度は100平米に付3.04となり、昭和5年10月の國勢調査に基づく舊地域の人口密度100平米に付2.48を優に超えてゐる有様である。

最初はこの二つの都市計畫線を平面交叉せしめる計畫であつたが、實際に測量・設計することによつて、環狀線に對して17分の1以上の勾配を認めるか、又は高さ4米の長大な擁壁の出現を認めねばならぬことを知つた。然るに小舗石道の坂路勾配としては、馬の足掛り上、18分の1以上の勾配を、標準荷重1875kgを積載して平均體重400kgの轆馬が昇ることは、實驗上甚だ困難であり、又大擁壁の出現を認めれば、高田南町を完全に縦に二分する結果、この工場地帯の活動力を害ふ。即ち二者何れを採つても、都市計畫路線としての使命に反するものとなる。

翻つて兩都市計畫線を高低交叉せしめるときは、次の利點を擧げる事が出来る。

- 1：交叉地點の北は住宅地で、多少の切取は何等故障とならぬこと。
- 2：東京府施工都市計畫道路制限勾配22分の1を十分にとり得ること、又この勾配

は理論上、その延長を221米まで認め得ること。

- 3：交通調査によつて街路交叉點に於ける直通及び分岐の交通量を比較するに、後者は前者の約40%にして、聯絡迂迴道路を造ることにより、分岐の目的は完全に達せられ、且つ兩都市計畫線の直通交通の能率を高め得ること。
- 4：高田南町一帶の工場地帯に対する環狀線利用價值を高め得ること。
- 5：高低交叉と平面交叉との工費の比較をするに、前者を採ることによつて、寧ろ

總工費に於て約15,000圓(約5%)の節減を爲し得ること。

以上の理由に依つて、本府は兩路線を高低交叉せしめることに決し、特別の街路施設を生んだ次第である。

工費及工期

工事區間延長	850.79米。
工期 工事着手	昭和6年9月17日
同 竣功	“ 8年4月20日
工事費	金209,806.84圓也
内 譯	111,941.124圓 材料費
	85,703.28 職工人夫賃

(2) 舊高田町附近都市計畫圖。大數字は道路の種別を示す。例1.3.12=一等大路第三類第十二號線。



4,327.81 消耗品費
1,834.626 諸雜費

但し以上は環狀線のみを計上したもので、千登世橋及び千登世小橋は次の通りである。

千 登 世 橋

本橋は都市計畫事業による放射線二等大路第一類第十一號線の内、豊島區高田本町二丁目先環狀線一等大路第三類第十二號線上に架設する公道橋で、經間 25.6米、中央に於て環狀線計畫路面上空間高を 3.8米とし、橋面は放射線の計畫高と一致せしめた。尙型式は二鉸拱橋である。

工期 工事着手 昭和7年1月22日
" 竣功 " 8年1月31日

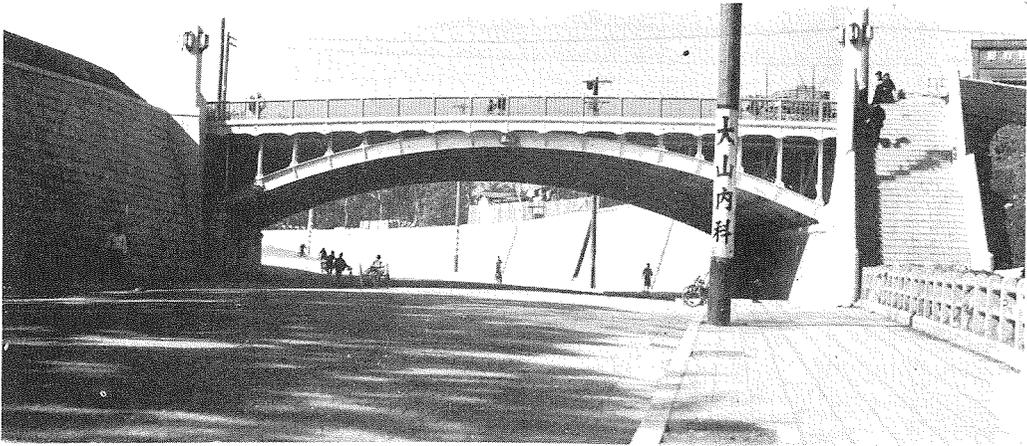
(3) 竣 功 せ る 千 登 世 橋 全 景。

工 費 59,450.417圓也
内 譯 31,887.45 橋臺工事費(直營)
16,529.507 鐵部構造工事(請負)
11,033.46 上部構造工事(直營)

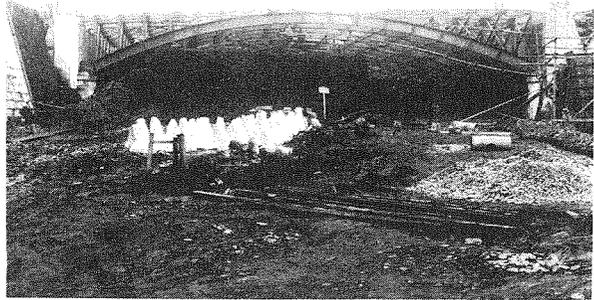
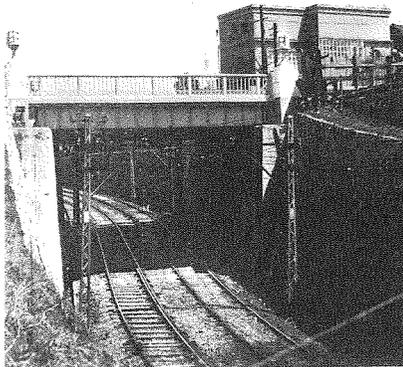
千 登 世 小 橋

本橋は千登世橋に隣して、王子軌道上に架設する跨線橋で、王子軌道會社の委託により本府に於て設計並に工事を施工したものである。その經間 9.15米、王子軌道面上空間高を 5.3米とし、橋面は放射線の計畫高に一致せしめた。型式は鋼板桁橋である。

工期 工事着手 昭和6年10月8日
" 竣功 " 7年3月10日
工 費 11,656.85圓也。



(4) 千登世小橋 (5) 組立終了せる千登世橋。中央の土は1.3-1.2の切取に際し架橋足場として残せしもの。





(9) 千登世橋々上より環狀道路新宿方面を望む。



(10) 同 上 舊 景 (工事着手直後)